

青年期における人格形成と 精神的健康に関する研究（Ⅲ）

—— 性役割および自我同一性地位と価値観の関連 ——

三 川 俊 樹 井 上 知 子 芳 田 茂 樹^{*}

A Study of Personality Formation
and Mental Health in Adolescence (Ⅲ):
Gender-Role, Ego-Identity Status and their relation to Values.

Toshiki MIKAWA, Tomoko INOUE, & Shigeki YOSHIDA

問題と目的

この一連の研究においては、青年期における人格形成および精神的健康を、自我同一性（Ego-Identity）および性役割（Gender-role）の観点から検討することを目的としている。三川・井上・芳田（1989）は、まず自我同一性を自我同一性地位（Identity Status）の視点から操作的に定義することにし、人生の重要な領域としては、「職業」および「価値」の2領域に加えて、「学業」の領域を新たに設定して、それぞれの領域に対する「探索」および「傾倒」の程度を測定する尺度を開発した。また、性役割に関しては、97項目の形容詞に対して自己評定させた結果をもとに、各項目の平均値を算出し、それぞれの性に特徴的な30項目を因子分析して、4尺度からなる尺度を開発した。さらに、開発された尺度について信頼性を確認した後に、性差およびその構造を検討し、自我同一性地位と性役割の関係について考察した。

ところで、青年期の人格形成には、その個人のもつ価値観が重要な影響を及ぼすことが従来から指摘されてきた。さらに、精神的健康との関係では、Allport, G. W. (1961) が、成熟した人格（mature personality）の基準1つとして「人生に統一を与える人生哲学」をあげているように、精神的健康と価値観とはきわめて密接な関係にあるといえる。

実際に、自我同一性や性役割の研究にも、価値観との関係を重視したものが多く見られる。たとえば、自我同一性地位に関する研究の多くは、青年期に検討されるべき主要な課題として、職業とイデオロギーの2領域を設定している。また、性役割に関する研究の中では、社会的望

* 大手前女子短期大学

ましさの視点から価値観にかかわる側面を扱っている。

しかしながら、自我同一性地位や性役割が、具体的にどのような価値観と関連しているのかについてはまだ十分に検討されていない。たとえば、自我同一性地位における「達成」とは、自らの生き方や可能性について迷いや探索の時期を経験し、その過程の中で確立された信念や価値観に基づいて行動できることであるとされるが、このような「達成」型の青年が、具体的にどのような価値を志向しているのかについては明らかにされていない。また、性役割に関しても、その個人の志向する価値と密接な関係があることが推測される。たとえば、「男らしい生き方」あるいは「女の生き方」などという言葉に表現されるように、価値観そのものが性役割と結びついていることは容易に推測できる。しかしながら、性役割と価値観の関係については、遠藤・梅本（1987）によって調査が行われているほかには、十分に検討されていないのが現状である。

一方、価値観に関しては、従来から多くの研究がなされてきているが、近年になってキャリア発達との関連から価値観の問題が検討されている。Super, D. E. らは、Work Importance Study (WIS) の国際比較研究の中で、キャリア発達に重要な影響を及ぼす要因として、価値 (value) と役割 (role) の2要因を取り上げ、両者の関連性を重視してきた。このうち、「価値」については、職業 (労働) 価値 (work value) として概念化され、個人がその人生において重視する価値が、職業選択やキャリア発達にどのような影響をもつかが問題にされてきた。例えば、自分の職業について、社会的な評価や権威、地位の昇進などを重視する人と、人間的成長や自己実現を志向する人とはかなり異なった職業選択を行うであろうし、職業生活だけでなく、家庭生活や趣味・レジャー活動などを含めたライフ・スタイルそのものが異なってくると考えられる。

このような視点から、個人が人生のさまざまな役割の中に見い出そうとしている価値を理解するために、これらの価値を操作的に定義し、測定するための尺度 (The Values Scale: VS) が開発された (Super, & Nevill, 1986)。この VS では、「能力の活用」や「創造性」に代表されるような、ある活動に固有の内在的価値 (intrinsic values) と、「昇進」や「経済的報酬」ように何らかの活動の結果として生じる外在的価値 (extrinsic values) の2タイプの価値が区別されている。

中西・三川 (1988) は、この VS の日本語版を作成し、日本の成人における職業 (労働) 価値観について検討を行った。また、中西・三川 (1989) は、日本の青年における職業 (労働) 価値観の構造を因子分析によって検討し、男子では4因子、女子では5因子を見い出している。すなわち、男子では、第1因子が「昇進」「経済的安定性」「経済的報酬」「社会的評価」などのような経済的報酬や安定性が社会的な評価や地位と結びついた『経済的地位』、第2因子は「自律性」「ライフ・スタイル」「創造性」「人間的成長」や「危険性」などのような個人の生活

や能力、内面性を表す『個人志向性』、第3因子は「肉体的能力」「身体的活動」などのほか、「社会的交流」「愛他性」を含む『社会的活動性』、第4因子は「美的追求」「能力の活用」「達成」など、将来の人生を志向した内容をもつ『未来志向性』の4因子構造であった。一方、女子の場合には、職業（労働）価値観の構造は、男子のそれにきわめて類似していることが示され、第1因子は『社会的活動性』、第2因子は『未来志向性』、第3因子は『個人志向性』に一致した。また、第4因子は「経済的安定性」「経済的報酬」を中心とした『経済的条件』、第5因子は「権威」「昇進」「社会的評価」を内容とする『社会的地位』と解釈され、この第4因子と第5因子が、男子における第1因子の『経済的地位』に相当することが明らかにされた。

この結果から、成人期においては、性別によって職業（労働）価値観の構造がかなり異なっていた（中西・三川，1988）のに対して、青年期の場合にはその性差がほとんど認めらず、男子と女子の職業（労働）価値観の構造がきわめて類似していることが指摘された。その理由として、成人期に比較すると、青年期における生活上の役割は男女でそれほど異なっておらず、性役割そのものが十分に分化していないためではないかと考えられた。つまり、性割と価値とは密接に関連しており、発達とともに人生における役割が分化し、それに伴って職業（労働）価値観の構造が変化していくのではないかとということが示唆された。

さて、本研究では、一連の目的に従って、青年期の人格形成における重要な要因として、自我同一性と性役割を取り上げ、これらをさまざまな価値観との関連から検討し、その特徴を明らかにすることを目的としたい。具体的には、先に開発した「性役割尺度」および「自我同一性地位尺度」とともに、職業（労働）価値観を測定する尺度を併せて実施し、それぞれの関連を検討しながら、青年期における価値観が性役割および自我同一性に及ぼす影響について考察したい。

方 法

（1） 調査票の構成

本研究で使用された尺度は、次の3つであった。

① 性役割の測定

性役割の測定には、三川ら（1989）が作成した「性役割尺度」を用いた。この「性役割尺度」は、表1に示したように「男性統合性」「男性典型性」「女性統合性」「女性典型性」の4尺度について各10項目で構成されており、それぞれの形容詞がどの程度自分にあてはまるかを、「非常によくあてはまる」から「ほとんどあてはまらない」までの5件法で自己評定させるものであった。なお、得点化にあたっては、「非常によくあてはまる」と回答した方向から

表1 性役割尺度の項目一覧

男性統合性	女性統合性
1. 思いやりがある	3. 陽気である
5. 誠意がある	7. 活動的であり
9. 良心的である	11. 友好的である
13. やさしい	15. 社交的である
17. 親切である	19. 力強い
21. 温厚である	23. 頼りになる
25. 正直である	27. 人に献身的である
29. 知的である	31. 感謝の気持ちをもつ
33. 話し方がおだやかである	35. 積極的である
37. きれい好きである	39. 人の気持ちに気づく
男性典型性	女性典型性
2. 臆病でない	4. 嫉妬深い
6. 仕事の手腕がある	8. 感情的である
10. 容易に決断を下せる	12. すぐに泣く
14. 男性的である	16. 傷つきやすい
18. 人の影響を受けにくい	20. 安心を求める
22. 自分に自信がある	24. 人に認めてもらいたい
26. 支配的である	28. 重大な危機に動揺する
30. 少しぐらいのことでは動じない	32. 同情的である
34. 自分の信念を曲げない	36. 傷ついた心をなぐさめたくなる
38. 個性が強い	40. 計画性がない

5点～1点を与えた。

② 自我同一性地位の測定

自我同一性地位を決定するために、「探索」および「傾倒」の程度を測定する「自我同一性地位尺度」（三川ら，1989）を用いた。この尺度は、「職業」「価値」「学業」の3領域のそれぞれにおける，探索（Exploration）と傾倒（Comittment）の程度を，それぞれ8項目で測定するものであった。この尺度は，各項目の記述文がどの程度自分にあてはまるかを考えさせ，「性役割尺度」と同様に5段階で自己評定させるものであった。

得点化にあたっては，「探索」および「傾倒」を表す方向から5点～1点を与えた。なお，自我同一性地位の決定には，各領域ごとに「探索」「傾倒」の得点を組み合わせ，それぞれの被検者を領域ごとに「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」の4地位に分類する。

③ 価値観の測定

価値観としては，Super, D. E. らの提案してきた職業（労働）価値観を取り上げることとし，その測定には中西・三川（1988）が作成した日本語版 VS を用いた。この日本語版 VS は20尺度から構成されるが，各下位尺度はその価値に関連する活動を記述した5つの項目を含んでいる。教示は，それぞれの活動に対して，「現在あるいは将来においてどのくらい重要だと思うか」を，「非常に重要である」から「ほとんど重要でない」までの4件法で回答を求め

るものである。得点化にあたっては、各項目ごとに「非常に重要である」と答えた方向から、4点～1点を与え、各尺度ごとに5項目の合計得点を算出するものであった。

なお、それぞれの下位尺度の内容を、各尺度の特徴的な項目を用いて説明したものを、＜Appendix＞に示した。

(2) 調査時期・調査対象

表2 調査対象の構成

		1年生	2年生	3年生	4年生	合計
本調査は、1990年4～5月に追手門学院大学の心理学科生を対象にして、個人配布で行なった。男子	男子	32	12	16	22	82
	女子	58	42	50	46	196

なお、調査票のフェイス・シートには年齢・学年・性別のほか、縦断的研究の必要性から、学籍番号の記入を求めた。完全回答が得られた被検者数は、表2に示す通りであった。

結果と考察

(1) 性役割と価値観の関係

性役割と価値観との関連を検討するために、性役割の4尺度と職業（労働）価値観の20尺度との相関をピアソンの相関係数によって男女別に算出し、表3-1、表3-2に示した。

表3-1 性役割と価値観の関係（男子、N=82）

下 位 尺 度	男性統合性	男性典型性	女性統合性	女性典型性
1. 能力の活用 (Ability Utilization)	.1771	.1975	.1869	-.0251
2. 達 成 (Achievement)	-.0181	.1379	.0998	-.0208
3. 昇 進 (Advancement)	.1039	.1838	.2175*	-.1517
4. 美的追求 (Aesthetics)	.2063	.2071	.2981**	-.0777
5. 愛 他 性 (Altruism)	.3239**	.0355	.2348*	.0263
6. 権 威 (Authority)	.2445*	.3426**	.3669**	-.1534
7. 自 律 性 (Autonomy)	.0307	.3278**	.2351*	-.1495
8. 創 造 性 (Creativity)	.0035	.3097**	.2528*	-.0622
9. 経済的報酬 (Economic Rewards)	-.0263	.1805	.0330	-.0923
10. ライフ・スタイル (Life Style)	.1342	.2352*	.2287*	-.0314
11. 人間的成長 (Personal Development)	.2477*	.1252	.2511*	.1359
12. 身体的活動 (Physical Activity)	.2091	.2130	.3093**	-.2621*
13. 社会的評価 (Prestige)	-.0205	.0286	.0120	.0763
14. 危 険 性 (Risk)	-.1530	.2369*	.1589	-.0697
15. 社会的交流 (Social Interaction)	.1565	.0652	.2495*	-.1811
16. 社会的関係 (Social Relations)	.0881	.0011	.0797	-.1068
17. 多 様 性 (Variety)	-.0559	.1960	.1782	-.1224
18. 働く環境 (Working Conditions)	-.0439	.0715	-.0583	-.0498
19. 肉体的能力 (Physical Prowess)	.0263	.0575	.1500	-.0812
20. 経済的安定性 (Economic Security)	.0656	.0566	.0269	-.0584

*: $p < .05$, **: $p < .01$

表 3-2 性役割と価値観の関係 (女子, N=196)

下 位 尺 度	男性統合性	男性典型性	女性統合性	女性典型性
1. 能力の活用 (Ability Utilization)	.0358	.1494*	.0636	.0624
2. 達 成 (Achievement)	.0419	.0971	.1383	.1910**
3. 昇 進 (Advancement)	.1057	.1434*	.0842	.0268
4. 美的追求 (Aesthetics)	.2205**	.0440	.1587*	.2060**
5. 愛 他 性 (Altruism)	.3029**	-.0360	.1349*	.0677
6. 権 威 (Authority)	.1159	.1733*	.1639*	.0883
7. 自 律 性 (Autonomy)	-.1051	.1689*	.0050	.1748*
8. 創 造 性 (Creativity)	.0233	.1649*	.1113	.1057
9. 経済的報酬 (Economic Rewards)	.1110	.0149	.0735	.1705*
10. ライフ・スタイル (Life Style)	-.0042	.1384	.0311	.1221
11. 人間的成長 (Personal Development)	.0091	.0898	.0680	.0697
12. 身体的活動 (Physical Activity)	.0854	.0515	.1777*	.0010
13. 社会的評価 (Prestige)	.0993	.0085	.0998	.2063**
14. 危 険 性 (Risk)	.0350	.1636*	.0932	.0207
15. 社会的交流 (Social Interaction)	.1605*	.0315	.2983**	.1449*
16. 社会的関係 (Social Relations)	.1194	-.0190	.2203**	.2525**
17. 多 様 性 (Variety)	-.0732	.0696	.0841	.1294
18. 働く環境 (Working Conditions)	.0999	.0306	.1222	.1997**
19. 肉体的能力 (Physical Prowess)	.0408	-.0363	.1002	.0283
20. 経済的安定性 (Economic Security)	.2179**	-.0627	.1527*	.1094

*: $p < .05$, **: $p < .01$

まず、男子の結果について検討する。

男子では、「男性統合性」が、「5. 愛他性」と 1% 水準で有意な正の相関を示したほか、「6. 権威」および「11. 人間的成長」とも 5% 水準で有意な正の相関を示した。この結果から解釈すると、「男性統合性」が高いほど、自らの内面的な生活の豊かさや人間的な成長を志向しながら、他者に対する指導性としての権威をもち、人々の幸福に寄与したいという愛他性を志向する傾向があることがうかがえる。また、「男性典型性」は、「6. 権威」「7. 自律性」「8. 創造性」と 1% 水準で有意な正の相関を示したほか、「14. 危険性」や「10. ライフ・スタイル」との間にも 5% 水準で有意な正の相関が認められた。この結果から見ると、男性に固有の伝統的な性役割を獲得しているほど、権威への志向を強くもち、自己決定が尊重される自律的な生き方を求め、多少のリスクを伴いながらも新しい創造や発見をめざすという個人志向的な価値観をもつ傾向があると解釈できよう。

さらに、男子において「女性統合性」と価値観との相関を見ると、「男性統合性」および「男性典型性」の特徴を併せもっていることが理解される。しかし、「女性統合性」は、「12. 身体的活動」および「15. 社会的交流」と有意な正の相関を示す点が特徴的であり、男子において「女性統合性」が高いほど、このような社会的活動性を志向する傾向があると考えられる。また、「女性典型性」は、「12. 身体的活動」とのみ 5% 水準で有意な負の相関を示し、男子において「女性典型性」が高い場合には、身体的な運動は重視されない傾向にあるといえよう。

次に女子の場合について検討する。

まず、「女性統合性」が「15. 社会的交流」「16. 社会的関係」との間に 1% 水準で有意な正の相関を示した点が特徴的であるが、「5. 愛他性」および「6. 権威」とも 5% 水準で有意な正の相関を示したことからみると、「女性統合性」が高いほど、他者との関係を重視する傾向があるといえる。また、「女性典型性」は、「16. 社会的関係」と 1% 水準で有意な正の相関を示したほか、「4. 美的追求」「2. 達成」という未来志向的な価値観や、「13. 社会的評価」「9. 経済的報酬」「18. 働く環境」といった経済的地位や労働条件にかかわる価値観とも有意な正の相関を示している点が特徴的である。

さらに、女子においては、「男性統合性」が「5. 愛他性」「4. 美的追求」「20. 経済的安定性」と 1% 水準で有意な正の相関を示しており、これは「女性統合性」で認められた関連のうちの一部がより強く表れたと見ることができる。また、「男性典型性」は、「7. 自律性」「8. 創造性」「14. 危険性」などの個人志向的な価値観と 1% 水準で有意な正の相関を示したほか、「6. 権威」「3. 昇進」といった社会的地位に関する価値観とも 5% 水準で有意な正の相関を示している点が特徴的である。

(2) 価値観と自我同一性地位の決定要因との関係

自我同一性地位の決定要因である「探索」と「傾倒」がそれぞれの価値観とどのように関連しているのかを検討するために、自我同一性地位の 6 尺度と職業（労働）価値観の 20 尺度との相関をピアソンの相関係数を用いて男女別に算出し、表 4-1、表 4-2 に示した。

まず、男子の結果について検討する。

職業領域では、「探索」が「2. 達成」「1. 能力の活用」と 1% 水準で有意な正の相関を示したほか、「4. 美的追求」とも 5% 水準で有意な正の相関を示した。また、「14. 危険性」とは 1% 水準で、「7. 自律性」とは 5% 水準で有意な正の相関を示した。この結果から見ると、将来の職業について迷いや探索の経験があるほど、未来志向性および個人志向性に関する価値を重視していることが理解される。あるいは、このような価値を志向するからこそ、自らの将来の職業について、かえって迷いや探索を多く経験すると解釈する方が妥当であるかもしれない。これに対して、職業領域の「傾倒」は、「18. 働く環境」と 5% 水準で有意な負の相関を示したに過ぎず、その他の価値観との間に有意な相関は認められなかった。この結果は、将来の職業に対するコミットメントが高いほど働く環境にはこだわらないと解釈することもできようが、それ以外には、職業領域での「傾倒」と価値観の間には特定の関係が見い出されなかった。

価値領域についてみると、「探索」と「1. 能力の活用」および「4. 美的追求」という未来志向的な価値観との間に有意な正の相関が認められたほか、「11. 人間的成長」および「14.

表4-1 「探索」および「傾倒」と価値観との関係（男子、N=82）

下 位 尺 度	職業領域		価値領域		学業領域	
	探索	傾倒	探索	傾倒	探索	傾倒
1. 能力の活用	.3034**	.0990	.3212**	.0653	.3516**	.3230**
2. 達成	.3306**	-.0589	.2136	-.0625	.1234	.0113
3. 昇進	-.0045	.0040	-.1901	-.0969	-.0003	-.2219*
4. 美的追求	.2442*	-.0261	.2200*	.1190	.1891	.1893
5. 愛他性	-.0430	.0196	.1303	.0447	.2673*	.3766**
6. 権威	.1165	.0891	-.0400	.0852	.0591	-.0494
7. 自律性	.2450*	-.0138	.1464	.1025	.1141	.0851
8. 創造性	.1990	.0539	.0867	.1187	.1692	.0403
9. 経済的報酬	.0761	-.0567	-.0809	-.1808	-.0342	-.0904
10. ライフ・スタイル	.2096	.0822	.2155	.0065	.2965**	.2580*
11. 人間的成長	.1993	-.0044	.3637**	.0684	.4085**	.2936**
12. 身体的活動	.0420	.0185	.1214	.1635	.2142	.0823
13. 社会的評価	.2034	-.0573	.0099	-.1374	-.0266	-.1835
14. 危険性	.3169**	-.0013	.2717*	.1010	.2073	.0064
15. 社会的交流	.0413	-.0279	-.0593	-.0061	.0395	-.0771
16. 社会的関係	-.0265	-.0691	-.0602	-.1571	-.1122	-.0437
17. 多様性	.0613	-.1596	.0699	.0046	.1314	-.0197
18. 働く環境	.0480	-.2776*	-.1164	-.1990	-.0713	-.1217
19. 肉体的能力	-.0122	-.0603	-.0119	-.0697	.0785	-.0529
20. 経済的安定性	.0544	-.1662	-.1274	-.2535*	-.0349	-.1062

*: $p < .05$, **: $p < .01$

危険性」いう個人志向的な価値観とも有意な正の相関を示した。このうち、「11. 人間的成長」とは最も高い相関を示していることから考えると、内面的な生活の満足や人間としての成長を志向するほど、自分の生き方や価値観に関して迷いや探索をより多く経験すると解釈することができよう。また、「傾倒」は「20. 経済的安定性」との間に 5% 水準で有意な負の相関を示したのみであった。この結果は、自分の生き方や人生の目標が定まっているほど経済的安定性は重視されないと解釈することもできるが、やはり職業領域での「傾倒」と価値観との間に特定の関係は認められないといえよう。

学業領域についてみると、「探索」は「11. 人間的成長」「1. 能力の活用」「10. ライフ・スタイル」と 1% 水準で有意な正の相関を示したほか、「5. 愛他性」との間にも 5% で有意な正の相関が認められた。また、「傾倒」についてみると、「5. 愛他性」との相関が最も高い点が特徴的であり、自らの専攻にコミットしているほど、他者への援助を志向する傾向があるといえる。さらに、「傾倒」は「1. 能力の活用」「11. 人間的成長」「10. ライフ・スタイル」と有意な正の相関を示していることから見ると、現在の専攻に打ち込んでいるほどこのような価値が重視されるといえる。しかしながら、「3. 昇進」とは 5% 水準で有意な負の相関が認められたことから考えると、学業領域でのコミットメントが高いほど、出世や昇進は重視しない傾向があると解釈することができよう。

表 4-2 「探索」および「傾倒」と価値観との関係(女子, N=196)

下 位 尺 度	職業領域		価値領域		学業領域	
	探索	傾倒	探索	傾倒	探索	傾倒
1. 能力の活用	.2827**	.0914	.1912**	.0453	.2031**	.1851*
2. 達成	.2022**	-.0511	.0493	-.0492	.0990	.1300
3. 昇進	.0239	-.0889	-.0928	-.0004	.0457	-.0231
4. 美的追求	.2909**	.1175	.1028	.0053	.2522**	.2200*
5. 愛他性	.2743**	.1316	.1668*	.0131	.2848**	.1743*
6. 権威	.1475*	.0445	.0321	.0578	.1823*	.1418*
7. 自律性	.1302	-.0007	.1643*	-.0488	.0784	.0473
8. 創造性	.2104**	.0549	.1604*	.0350	.0978	.1529*
9. 経済的報酬	-.0602	-.1828*	-.1437	-.0727	-.0443	-.1123
10. ライフ・スタイル	.2883**	.0562	.2663**	.0274	.1759*	.1585*
11. 人間的成長	.3457**	.0339	.2899**	.0401	.2055**	.0796
12. 身体的活動	.1170	.0425	-.0174	.0621	.0531	.1395
13. 社会的評価	.0397	-.1001	-.0720	-.0861	-.0322	.1215
14. 危険性	.1984**	.0181	.2262**	.0485	.0927	.0491
15. 社会的交流	.1464*	-.0323	-.0014	.0258	.1357	.0317
16. 社会的関係	.0399	-.0084	-.0900	-.0293	.1049	-.0382
17. 多様性	.1575*	-.0049	.0859	-.0010	.0653	.0693
18. 働く環境	.2032**	-.0628	.0053	-.0420	.1167	.0562
19. 肉体的能力	.0378	-.0937	-.0160	-.0228	-.0160	.0805
20. 経済的安定性	-.0145	-.1645*	-.2521**	-.0400	.0946	-.0018

*: $p < .05$, **: $p < .01$

次に女子の結果について検討する。

職業領域での「探索」は、男子の結果と同様に、「4. 美的追求」「1. 能力の活用」「2. 達成」といった未来志向的な価値観との間に 1% 水準で有意な正の相関を示したほか、「11. 人間的成長」「10. ライフ・スタイル」「8. 創造性」「14. 危険性」という個人志向的な価値観とも有意な正の相関を示した。また、「傾倒」は、「9. 経済的報酬」および「20. 経済的安定性」と 5% 水準で有意な負の相関を示していることから考えると、職業に関するコミットメントが高いほど、このような経済的条件は重視されないことが理解される。

価値領域についてみると、「探索」が「11. 人間的成長」「10. ライフ・スタイル」「14. 危険性」「7. 自律性」「8. 創造性」といった個人志向的な価値観と有意な正の相関を示したのに対して、逆に「20. 経済的安定性」との間には 1% 水準で有意な負の相関が認められた点特徴的である。また、価値領域の「傾倒」は、全ての尺度との間に全く有意な相関を示さなかった。なお、職業領域、価値領域のいずれにおいても、「探索」と「5. 愛他性」との間に有意な正の相関が認められる点が男子とは異なり、女子の場合には、他者に対する援助を内容とする愛他性を志向することが、将来の職業や生き方に関する迷いや探索をもたらしやすいのではないかと考えることができる。

学業領域でも、職業、価値領域と類似した結果が認められ、「探索」と「5. 愛他性」「4.

美的追求」「11. 人間的成長」「1. 能力の活用」との間には、1%水準で有意な正の相関が認められた。また、「傾倒」と価値観の間にも、「4. 美的追求」をはじめとする6尺度で有意な正の相関が認められたが、男子の場合ほどその相関は高くなく、現在の専攻に対するコミットメントと価値観の関係は、男子の場合ほど密接ではないといえよう。

(3) 自我同一性地位と価値観の関係

自我同一性地位の4類型、すなわち「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」の各地位において、いずれの価値が志向されているのかを検討した。

まず、自我同一性地位の決定にあたっては、男女別に、表5に示した「探索」および「傾倒」尺度の平均値(三川ら, 1989)を基準値とし、各個人の得点に基づいて、4つの同一性地位のいずれかに分類した。すなわち、それぞれの領域ごとに、「探索」および「傾倒」がともに基準値以上の群を「達成」とし、「探索」は基準値以上であるのに対して「傾倒」が基準値未満の群を「モラトリアム」とした。また、「探索」が基準値未満であるのに対して「傾倒」が基準値以上の群を「早期完了」とし、「探索」および「傾倒」がいずれも基準値未満の群を「拡散」とした。なお、それぞれの領域における各地位の出現度数を表6に示した。

次に、それぞれの自我同一性地位において重視される価値を検討するために、それぞれの地位ごとに、職業(労働)価値観20尺度の得点を一元配置の分散分析によって検定し、4つの地位間で有意な条件差のあった尺度についてのみ、その平均と標準偏差および分散分析の結果

表5 自我同一性地位尺度の平均とSD(三川ら, 1989)

下位尺度		男 子	女 子
職業領域	探索	28.51 (5.85)	29.80 (4.58)
	傾倒	23.37 (6.00)	22.74 (5.45)
価値領域	探索	30.10 (5.38)	29.97 (5.17)
	傾倒	22.87 (6.51)	21.53 (5.46)
学業領域	探索	24.78 (5.66)	26.94 (4.56)
	傾倒	28.70 (6.23)	29.45 (4.97)

表6 各領域ごとの同一性地位の度数

	男 子 (N=82)				女 子 (N=196)			
	達 成	モラトリアム	早期完了	拡 散	達 成	モラトリアム	早期完了	拡 散
職業領域	24	24	9	25	67	56	19	54
価値領域	25	21	12	24	54	67	33	42
学業領域	41	10	13	18	87	35	27	47

を、表7-1、表7-2に示した。

まず、男子の結果について検討する。

職業領域において、4つの自我同一性地位間に有意な条件差の認められたのは、「1. 能力の活用」および「2. 達成」という未来志向性に関する2尺度であった。とくに、「早期完了」地位の得点は、他の地位に比較するといずれの尺度でも最も低くなっており、将来の職業に関して「探索」を経験しないまま、すでに「傾倒」をしている「早期完了」型の男子は、このよ

表7-1 自我同一性地位と価値観の関係（男子、N=82）

職 業 領 域	達成 (N=24)	モラトリアム (N=24)	早期完了 (N=9)	拡散 (N=25)	F
1. 能力の活用	17.83 (1.77)	17.21 (2.10)	15.67 (2.05)	16.32 (2.49)	3.126*
2. 達成	16.13 (2.22)	16.71 (2.11)	14.67 (1.76)	14.96 (2.85)	2.933*
価 値 領 域	達成 (N=25)	モラトリアム (N=21)	早期完了 (N=12)	拡散 (N=24)	F
1. 能力の活用	17.80 (1.90)	17.24 (2.22)	15.67 (1.65)	16.46 (2.48)	3.150*
5. 愛他性	14.12 (2.89)	12.86 (3.38)	10.92 (3.23)	14.88 (3.17)	4.581**
8. 創造性	17.56 (2.43)	15.57 (2.63)	15.17 (2.48)	15.79 (2.58)	3.519*
11. 人間的成長	18.32 (1.38)	17.62 (1.99)	16.17 (2.73)	16.92 (2.34)	3.400*
18. 働く環境	13.68 (2.41)	13.67 (2.66)	12.42 (2.93)	14.92 (2.10)	2.761*
学 業 領 域	達成 (N=41)	モラトリアム (N=10)	早期完了 (N=13)	拡散 (N=18)	F
1. 能力の活用	17.63 (2.02)	16.40 (2.11)	16.54 (1.91)	16.00 (2.58)	2.787*
5. 愛他性	14.37 (3.42)	11.50 (2.11)	14.00 (3.14)	12.50 (3.45)	2.754*

*: $p < .05$, **: $p < .01$

表7-2 自我同一性地位と価値観の関係（女子、N=196）

職 業 領 域	達成 (N=67)	モラトリアム (N=56)	早期完了 (N=19)	拡散 (N=54)	F
1. 能力の活用	16.97 (2.24)	17.36 (2.07)	16.16 (1.76)	15.69 (2.54)	5.839**
2. 達成	15.21 (2.68)	16.07 (1.86)	14.63 (2.37)	14.70 (2.38)	3.608*
4. 美的追求	17.10 (2.62)	17.30 (2.10)	16.11 (2.75)	15.59 (2.33)	5.809**
5. 愛他性	15.07 (3.16)	14.80 (3.18)	13.05 (3.17)	13.06 (3.31)	5.298**
11. 人間的成長	17.81 (1.93)	18.23 (1.30)	16.05 (1.90)	16.72 (1.97)	11.192**
15. 社会的交流	13.19 (3.07)	13.80 (3.04)	11.68 (2.34)	12.28 (2.97)	3.683*
価 値 領 域	達成 (N=54)	モラトリアム (N=67)	早期完了 (N=33)	拡散 (N=42)	F
7. 自律性	14.20 (2.58)	14.46 (2.25)	13.24 (1.95)	13.57 (2.13)	2.729*
10. ライフ・スタイル	15.57 (2.34)	15.96 (2.17)	14.79 (2.76)	14.48 (1.85)	4.429**
11. 人間的成長	17.70 (2.07)	17.81 (1.60)	17.06 (1.92)	16.90 (2.04)	2.696*
20. 経済的安定性	13.13 (3.74)	13.06 (3.03)	15.03 (3.19)	14.95 (2.93)	5.165**
学 業 領 域	達成 (N=87)	モラトリアム (N=35)	早期完了 (N=27)	拡散 (N=47)	F
1. 能力の活用	17.52 (1.97)	15.71 (2.32)	16.04 (2.22)	16.09 (2.49)	8.152**
4. 美的追求	17.47 (1.98)	15.80 (2.62)	16.22 (2.57)	16.00 (2.84)	6.115**
5. 愛他性	15.11 (3.08)	13.94 (3.27)	13.19 (3.31)	13.47 (3.45)	3.975**
8. 創造性	15.80 (2.94)	14.43 (2.87)	14.93 (2.89)	14.64 (2.76)	2.731*
10. ライフ・スタイル	15.97 (2.37)	14.86 (1.99)	14.67 (1.98)	14.91 (2.45)	3.970**

*: $p < .05$, **: $p < .01$

うな価値を重視しないと考えられる。

価値領域においては、5尺度において条件差が認められた。この中では、職業領域と同様に、「早期完了」地位の得点が5つの尺度のすべてにおいて最も低く、とくに「5. 愛他性」は低いことが示された。これとは逆に、「拡散」地位における「5. 愛他性」は4つの地位の中で最も高く、さらに「18. 働く環境」についても4つの地位の中で最も高い得点を示した点が特徴的である。

学業領域についてみると、「1. 能力の活用」と「5. 愛他性」で条件差が認められた。このうちの「1. 能力の活用」は、「達成」地位が最も高い得点を示し、「拡散」地位では最も得点が低かった。また、「5. 愛他性」に関しては、価値領域の結果とは異なり、「達成」地位の得点が最も高く、「早期完了」がこれに続き、「モラトリアム」が最も低い点が特徴的であった。

次に女子の結果について検討する。

職業領域では、6つの尺度で条件差が認められた。とくに「モラトリアム」地位は、「5. 愛他性」を除く5尺度で最も高い得点を示しており、職業に関して迷いや探索を経験しながらもコミットメントの対象が見い出せていない「モラトリアム」地位は、「1. 能力の活用」「2. 達成」「4. 美的追求」という未来志向的な価値を志向するとともに、「11. 人間的成長」や「15. 社会的交流」を重視しながら、現在のところ傾倒できる職業の方向を探索しつつあることが理解される。

価値領域では、4尺度で有意な条件差が認められたが、とくに「モラトリアム」地位においては、「7. 自律性」「10. ライフ・スタイル」「11. 人間的成長」の得点が、4つの地位の中で最も高くなっており、「モラトリアム」型の女子は、個人志向的な価値を最も重視していることが理解される。逆に、「20. 経済的安定性」については、「モラトリアム」地位の得点が4つの地位の中では最も低く、逆に「早期完了」地位の得点が最も高いという結果が認められた。

学業領域では、5つの尺度で条件差が認められたが、職業領域や価値領域とは異なり、5つの尺度のすべてに関して「達成」地位の得点が最も高かったが、「モラトリアム」地位の「1. 能力の活用」「4. 美的追求」「8. 創造性」は4つの地位の中で最も低かった。この結果からみると、現在の専攻について迷いや探索を経験しているにもかかわらず、コミットメントができていない「モラトリアム」型の女子は、現在の専攻に打ち込むことができないために、このような価値を積極的に重視しない状況にあるといえよう。

結 論

本研究においては、先に作成した「性役割尺度」および「自我同一性地位尺度」に加えて、Super & Nevill (1986) によって開発された職業（労働）価値観を測定する尺度（Values

Scale) の日本語版を併せて実施し、性役割および自我同一性と価値観の関連について検討した。

まず、性役割と価値観の関連についてみると、男女とも、統合性と典型性がそれぞれ異なった価値観と関連しており、男子では「男性統合性」と「愛他性」の間に特徴的な関連が認められたほか、「男性典型性」が「権威」や「自律性」「創造性」との関係が深いことが示された。また、女子では、「女性統合性」が「社会的交流」および「社会的関係」と関連があり、「女性典型性」は「社会的関係」や「社会的評価」「美的追求」などと関連することが示された。

次に、自我同一性の「探索」および「傾倒」の程度と価値観の関連を検討した。その結果、男子では、職業および価値領域において、未来志向的な価値観および個人志向的な価値観が「探索」と深い関連をもつことが示され、このような価値を志向するほど、職業や価値に関して多くの迷いや探索を経験するものと解釈された。しかしながら、職業および価値のいずれの領域においても、「傾倒」と価値観の間に特徴的な関連を見い出すのは困難であった。これは、大学生の段階においては、将来の職業や価値について迷いや探索はすでに経験しているにもかかわらず、特定の職業や価値に対するコミットメントが実際には達成されていないことが多いためではないかと考えられた。これに対して、学業領域の「傾倒」は、価値観との間に特徴的な関連を示し、現在の専攻に対してコミットしているほど、「愛他性」「能力の活用」「人間的成長」を志向し、逆に「昇進」を重視しないという結果が示された。この傾向は、心理学専攻の男子学生の態度を反映したものとして解釈することができよう。一方、女子においても、男子とほぼ同様の結果が認められたが、職業および価値領域のいずれにおいても、「探索」と「愛他性」の間に有意な正の相関が認められた点が男子とは異なり、「愛他性」が職業や価値に対する迷いや探索と関連していることが示唆された。また、職業領域の「傾倒」が高いほど、「経済的報酬」や「経済的安定性」のような経済的条件を志向しないという傾向も男子には見られなかった特徴であった。

最後に、自我同一性地位と価値観の関係を検討した。4つの自我同一性地位間で条件差の見られた価値観を検討した結果、男子に特徴的であったのは、職業および価値領域における「早期完了」地位が、これらの価値を重視しないという点であった。これは、「早期完了」型の男子は、すでに職業や価値に関してのコミットメントをもっているために、未来志向的な価値や個人志向的な価値が重視されないのではないかと考えられた。女子では、職業および価値領域における「モラトリアム」地位に特徴が認められ、「モラトリアム」地位は「達成」地位よりも、さまざまな価値を志向していることがうかがわれた。つまり、職業や価値について「モラトリアム」地位にある女子は、さまざまな価値をより強く志向しながら、傾倒の対象を見い出そうとしている途上にあるものと理解された。

以上の結果から、青年期の人格形成における主要な要因としての性役割および自我同一性に

は、その個人のもつ価値観が重要な影響を及ぼしていることは明らかであろう。しかしながら、個人のもつ価値観は、それぞれの個人がおかれた状況や、直面する現実の条件によって変化することもありうる。青年期は、まさに自己の価値観を確立する時期であり、自分の能力や適性に気づき、現実の条件や制約を認識しながら、社会や周りの人々からの要請や期待に応えようとすることによって、それまで抱いてきた価値観を変更し、新しい生き方を探索せざるを得なくなることもあるだろう。このような価値観形成のプロセスを理解しようとするならば、これまでの問題意識の中で提言されてきたように、やはり縦断的な視点からの発達的研究が必要となると思われる。

引用文献

- Allport, G. W. (1961) *Pattern and Growth in Personality*. Holt, Rinehart & Winston. (今田 恵監訳 (1968) 『人格心理学 上・下』, 誠信書房)
- 遠藤由美・梅本堯夫 (1987) 女子短大生における性役割観と職業をめぐる価値観 『発達研究』, 3, 177-186.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 (1989) 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究 (Ⅱ) — 自我同一性地位および性役割の測定 『追手門学院大学文学部紀要』, 23, 19-36.
- 中西信男・三川俊樹 (1988) 職業 (労働) 価値観の国際比較に関する研究 —— 日本の成人における 職業 (労働) 価値観を中心に 『進路指導研究』, 9, 10-18.
- 中西信男・三川俊樹 (1989) 職業 (労働) 価値観の国際比較に関する研究 (2) —— 日本の青年における調査結果 『日本進路指導学会第11回研究大会発表要旨集録』, 16-17.
- Nevill, D. D., & Super, D. E. (1986) *The Values Scale: Theory, Application, and Research (Manual)*. Consulting Psychologists Press.
- Super, D. E., & Nevill, D. D. (1986) *The Values Scale*. Consulting Psychologists Press.

〈Appendix〉

職業（労働）価値観尺度（Values Scale）の下位尺度と項目例

下 位 尺 度	No.	項 目 例
1. 能力の活用 (Ability Utilization)	21.	自分の能力が生かせる仕事をする事
2. 達成 (Achievement)	2.	自分がよくやったことを示す成果を得ること
3. 昇進 (Advancement)	43.	昇進できること
4. 美的追求 (Aesthetics)	4.	人生をもっとすばらしいものにすること
5. 愛他性 (Altruism)	5.	困っている人々を助けること
6. 権威 (Authority)	86.	人々に物ごとをさせるような権威を持つこと
7. 自律性 (Autonomy)	47.	自分なりのやり方で、自由に仕事をすすめること
8. 創造性 (Creativity)	8.	新しいことを発見したり、発展させたり、考え出したりすること
9. 経済的報酬 (Economic Rewards)	29.	高い収入を得ること
10. ライフ・スタイル (Life Style)	10.	自分自身の考え方に従って生活すること
11. 人間的成長 (Personal Development)	71.	自分の内面的な生活を豊かにすること
12. 身体的活動 (Physical Activity)	52.	自分の仕事において、身体を使って活動すること
13. 社会的評価 (Prestige)	33.	自分のやりとげたことが、他の人々から認められること
14. 危険性 (Risk)	14.	冒険的なことをやってみること
15. 社会的交流 (Social Interaction)	35.	一人ではなく、グループで仕事をする事
16. 社会的関係 (Social Relations)	16.	友人と一緒にいること
17. 多様性 (Variety)	17.	毎日、どこかに変化のある暮らしをすること
18. 働く環境 (Working Conditions)	18.	仕事をする場が、広くて、明るいこと
19. 肉体的能力 (Physical Prowess)	19.	一生懸命に、身体を使って仕事をする事
20. 経済的安定性 (Economic Security)	20.	職業が安定して、将来に不安のないところで働くこと